

グローバル AI 方針

目次

第 1 章 総則.....	1
第 1 条 目的.....	1
第 2 条 適用範囲.....	1
第 3 条 用語の定義.....	1
第 2 章 オリンパスの AI ガバナンスフレームワーク	2
第 4 条 AI リスク	2
第 5 条 オリンパス AI 原則.....	2
5.1 患者さん中心および有益な人工知能の使用	2
5.2 安全性、有効性、およびコンプライアンス	2
5.3 公平性、非差別、および平等	3
5.4 透明性、説明可能性、および説明責任.....	3
5.5 プライバシーとセキュリティ	3
5.6 AI システムライフサイクル全体にわたる継続的な監視.....	4
第 6 条 AI ガバナンス	4
第 7 条 AI ツールの開発、展開、および使用の基本要件.....	4
7.1 AI ツール使用に関するガイダンス	5
7.2 承認された AI ツールのリスト.....	5
7.3 AI ユースケースの概要	5
第 8 条 AI 製品開発の基本要件.....	6
第 9 条 AI 原則の不遵守.....	6

第1章 総則

第1条 目的

このグローバル AI 方針の OGR は、オリンパスの AI システムの開発およびグローバルな展開に関するルールを定めたものである。

第2条 適用範囲

本 OGR は、全てのオリンパスグループの会社、取締役、役員、幹部、マネージャーおよび従業員、ならびに AI システムの開発、展開、または管理に関与する契約者に適用される。これには、製品開発における AI ツールの使用も含まれる。

第3条 用語の定義

- a) 人工知能 (AI)
明示的または暗黙的な目的のために、様々な程度の自律性をもって動作するように設計され、その導入後も学習などを通じて適応性を示す可能性があり、受け取った入力から物理的または仮想的な環境に影響を与える予測、コンテンツ、推奨、または決定などの成果物を生成する方法を推論する、機械ベースのシステム。
- b) AI ツール
オリンパスによって開発および/または展開されたソフトウェアまたは機械で、AI を組み込んでいるが AI 製品ではないもの。
- c) AI 製品
AI を組み込んでいるオリンパス製品（医療用または非医療用）で、AI ツールではないもの。
- d) AI システム
AI ツールまたは AI 製品。
- e) AI ユースケース
AI による価値創出、成果の改善、またはプロセスの効率化のために使用される特定の問題、タスク、手順、またはその他のプロセスのセット。
- f) AI リスク
AI システムの開発、展開、および使用から生じる特定のリスク。
- g) AI 原則
オリンパスのコアバリューに基づく原則で、AI 技術およびそれに伴う特定の AI リスクに対するオリンパスのアプローチ。
- h) AI ガバナンス
製品開発における使用を含む AI ツールの倫理的かつ責任ある開発および展開を確保し、AI 製品の開発を含む AI リスクを管理するコンプライアンスフレームワーク。
- i) AI ガバナンス&データコンプライアンスセンターオブエクセレンス (AI ガバナンス CoE)
AI ガバナンスの構築およびその実施を監督する責任チーム。

第2章 オリンパスの AI ガバナンスフレームワーク

第4条 AI リスク

人工知能は独自のリスクをもたらし、既存のリスクを増加させる可能性がある。本 OGR の方針および AI ガバナンスの目的は、これらのリスクを適切に特定し、軽減することにある。

AI リスクには、特に以下が含まれる。

- ・ 不正確で有害な成果物の生成リスク、生成 AI アプリケーションによる幻覚（ハルシネーション）や他の AI システムの不正確な成果物、バイアス、不適切なコンテンツ。
- ・ 機密性および著作権リスク、第三者によるモデルのトレーニングや微調整のための入力の使用、データの流出、または第三者の著作権、コピーレフト、または著作権侵害のリスクを含む成果物。
- ・ プライバシーおよびサイバーセキュリティリスク、第三者による入力または成果物の監視、プロンプトインジェクション、またはデータポイズニング攻撃。
- ・ 人間と AI の相互作用リスク、透明性の欠如、ユーザーの過度の依存（自動化バイアス）、人間のエージェントの置き換え、および人による監視の欠如。

第5条 オリンパス AI 原則

AI リスクを効果的に軽減するために、オリンパスは以下の AI 原則を遵守することを表明する。これらはオリンパスの AI システムへの適切なアプローチを導き、この原則がオリンパスのコアバリューの延長であることを表している。

5.1 患者さん中心および有益な人工知能の使用

オリンパスは、患者さんの安全性と健康結果を向上させ、医療提供の質を改善するという使命に沿った人工知能の使用を目指している。AI システムの適用は、最終的に患者さんおよび医療提供者に利益をもたらすことを目的とするべきである。オリンパスは、この目標を達成するために必要に応じて関連するステークホルダーと協力しなければならない。

コアバリュー：患者さん第一、イノベーション、実行実現、共感

私たちがすべきこと：患者さんの治療結果と医療提供の改善を主な目的として AI システムを設計および展開します。

私たちがしてはならないこと：商業的利益を患者さんの健康より優先し、提供される医療の質や患者の安全を損なう方法で AI システムを開発または展開すること。

5.2 安全性、有効性、およびコンプライアンス

主要な医療メーカーであることは、重要な患者の安全性およびコンプライアンスの責任を伴うことになる。我々は、関連する品質、安全性および有効性の基準を満たし、関連するグローバル規制に準拠する AI 製品を開発し、AI ツールを展開することを約束しなければならない。これには、厳格なテストおよび継続的な監視が含まれる。我々は、AI 製品および展開された AI ツールの信頼性とセキュリティを確保するために、機械学習およびデータサイエンスのベストプラクティスを採用しなければならない。

コアバリュー：誠実、共感

私たちがすべきこと：高い品質、安全性、有効性の基準を満たし、適用される規制に準拠した AI システムを開発および展開します。

私たちがしてはならないこと：適切に検証されていない、または患者さんの安全や規制遵守のために未解決のリスクをもたらす AI システムの使用を容認しません。

5.3 公平性、非差別、および平等

我々は、AI 製品における起こりうるバイアスを特定、検討、防止および軽減するために積極的に取り組まなければならない。オリンパスの AI 製品は、公平性を促進し、健康格差を助長しない方法で開発および展開されなければならない。AI 製品および展開された AI ツールに使用されるデータは、多様な人口および人口統計グループを代表するものとし、可能な限り公平な結果を確保する必要がある。

コアバリュー：誠実、共感

私たちがすべきこと：トレーニング、検証、およびテストデータセットが、関連性があり、十分に代表的であり、可能な限りエラーがなく、特定の AI 製品の意図された目的に照らして完全であることを確保します。

私たちがしてはならないこと：異なる患者さんの集団や従業員間の格差を生み出す、または悪化させる可能性のあるバイアスのある結果を提供することが示された AI システムを開発または展開すること。

5.4 透明性、説明可能性、および説明責任

AI システムは、適切な追跡可能性および説明可能性を許容する方法で開発および使用され、ユーザーが AI システムと情報のやり取りをしていることを認識できるようにしなければならない。我々は、AI システムの能力および限界について、すべての関連するステークホルダーに包括的な情報を提供することを約束する必要がある。我々の AI システムの負の影響を特定し、対処するための関連する制御メカニズムが整備する必要がある。

コアバリュー：誠実さ、インパクト、共感

私たちがすべきこと：適切な追跡可能性と説明可能性を提供し、負の影響を特定し対処するための管理フレームワークが整備されている方法で AI システムを開発および使用します。

私たちがしてはならないこと：適切な透明性が提供されておらず、そのため AI システムの提供者による情報に基づいた意思決定がサポートされない、または問題に対処するための明確な説明責任のフレームワークがない AI システムを開発または展開すること。

5.5 プライバシーとセキュリティ

患者さんおよび従業員のデータを保護することは最重要である。我々は、AI システムが関連するデータ保護法およびベストプラクティスに準拠することを確保する必要がある。AI 製品は、個人データを保護し、プライバシー権を尊重するように設計される。AI ツールを展開する際には、当社並びに第三者の秘密情報を保護し、パートナーの知的財産権または正当な秘密保持義務を侵害しないよう努めなければならない。

コアバリュー：患者さん第一、誠実、共感

私たちがすべきこと：個人データを保護し、プライバシー権を尊重し、適用されるデータ保護法およびベストプラクティスに従って秘密情報を保護する堅牢なセキュリティ対策を備えた AI システムを設計および展開します。

私たちがしてはならないこと：個人データを危険にさらし、適用されるデータ保護規制に違反し、または秘密情報を漏洩するリスクのある AI システムを使用すること。

5.6 AI システムライフサイクル全体にわたる継続的な監視

人工知能は技術として常に進化しており、その対策も進化しなければならない。我々は、AI システムの実際の使用から得られた経験を定期的にレビューし、対処することを約束しなければならない。経験には、ユーザーのフィードバック、データセットの充実、および技術の進歩が含まれるが、これらに限定されない。オリンパスは、AI 研究および社会的期待の新しい発展を反映するために倫理基準を更新することを約束する必要がある。

コアバリュー：イノベーション、インパクト

私たちがすべきこと：AI システムのライフサイクル全体にわたって、AI システムの実際の環境での性能を適切に監視し、AI バリューチェーンに沿った関連アクターとの協力を含む。特に、AI システムの安全性と有効性を確保するために、透明性とバイアスの制御を設計に組み込むことに重点を置いています。

私たちがしてはならないこと：AI 技術の新たな進展、ユーザーのフィードバック、およびシステムのパフォーマンスと信頼性を向上させる可能性のある倫理的配慮を無視すること。

第6条 AI ガバナンス

AI リスクを効果的に軽減し、AI 原則を実施するために、オリンパスは AI ガバナンスプログラムを作成および維持しなければならない。

このコンプライアンスフレームワークは、AI システムの倫理的かつ責任ある開発および展開を確保するとともに、AI システムが法律、規制、コンプライアンスおよびその他の適用要件に一致することも担保しなければならない。

Chief Compliance Officer and Head of GRC の指示の下、AI ガバナンス&データコンプライアンスセンターオブエクセレンス（AI ガバナンス CoE）は、AI ガバナンスプログラムの作成、実施、および維持を監督する責任を負う。

AI ツール（第7条）およびAI 製品（第8条）のための AI ガバナンスプログラムの基本ルールについて以下に示す。

第7条 AI ツールの開発、展開、および使用の基本要件

オリンパスは、AI ツールの開発、展開、および使用において以下の原則を遵守する：

- ・ オリンパスは、AI ツールの展開および評価において人の手による監視措置を実施し、必要に応じて AI ツールを修正または停止するために人間が介入できるようにしなければならない。
- ・ オリンパスは、プライバシー、自律性、または尊厳を侵害する方法で従業員を自動的に評価または懲戒するために AI ツールを使用しない。これらのプロセスには人の手による監視が存在し、従業員が懸念を解決する機会を提供することが含まれている。

- ・ オリンパスは、AI ツールに関する適切な透明性を提供する。
- ・ オリンパスは、AI ツールを展開する際に従業員、顧客、パートナー、およびその他のステークホルダーの個人データを保護しなければならない。AI ツールの開発、展開、および使用は、OGR-32-001-00（グローバルプライバシー方針）に従わなければならない。
- ・ オリンパスは、AI ツールを展開する際に秘密情報を保護しなくてはならない。AI ツールの開発、展開、および使用は、OGR-29-010-00（秘密情報管理規程）に従う必要がある。

7.1 AI ツール使用に関するガイダンス

AI ガバナンス CoE は、AI ツールの使用要件およびオリンパス AI 原則を実践で遵守する方法に関するガイダンスを以下に発行している。

7.2 承認された AI ツールのリスト

AI ガバナンス CoE は、オリンパス従業員による使用が評価および承認された AI ツールのリストを以下に公開し維持をする。

公式業務で AI ツールを使用する際、オリンパスの情報やオリンパスの IT システムを使用する場合、従業員はそこにリストされている AI ツールのみを使用し、それぞれの AI ツールの制限と要件を遵守しなければならない。

7.3 AI ユースケースの概要

AI ガバナンス CoE は、適用される AI リスクに対して評価された AI ユースケースの概要を以下に維持し、公開する。

この AI ユースケースの概要には、一般的に許容される「高リスク」および許容されない AI ユースケースが含まれている。

- ・ **許容される AI ユースケース**は、承認された AI ツールを使用するすべての従業員が、当該 AI ツールの制限と要件を遵守しながら利用することができる。
例：ブレインストーミング、テキストの要約や翻訳、文書やメールの作成。
- ・ **「高リスク」AI ユースケース**は、特別に設計され承認された AI ツールを使用する専門の従業員のみが、AI ガバナンス CoE と連携して利用することができる。
例：AI ツールを使用して AI 製品を開発する、コード生成、法的レビュー、人事業務、生体認証。
- ・ **許容されない AI ユースケース**は、いかなる理由でも従業員が利用することはできない。これには、以下のケースが含まれる。
 - ◆ 感情認識（医療/安全目的を除く）
 - ◆ 機微な特性を使用した生体認証の分類
 - ◆ 無意識の影響を通じて身体的または心理的な害を引き起こす可能性のあるサブリミナル操作
 - ◆ 行動操作を通じて特定のグループの脆弱性を悪用すること
 - ◆ 社会的行動や性格に基づく一般的な社会スコアリング
 - ◆ 性格プロファイリングに基づく個人の犯罪予測

第8条 AI 製品開発の基本要件

オリンパスは、AI 製品のライフサイクルの各段階で、必要に応じて関連する内部および外部のステークホルダーを関与させなければならない。

オリンパスは、AI 製品の運用と性能を監視するために、オリンパスの AI 製品のユーザーやその他の関連情報から提供される関連データを収集、文書化、分析するポストマーケット監視システムを維持する。

オリンパスは、AI 製品およびそのライフサイクル全体で既知および合理的に予見可能なリスクを特定し対処するためのリスク管理システムを確立し維持しなければならない。このシステムは、ポストマーケットの監視に基づいて必要に応じて確立される。

- ・ オリンパスは、関連するデータ品質の側面とデータプライバシーを確保するデータおよびデータガバナンスフレームワークを実施し維持する。オリンパスは、トレーニング、検証、およびテストデータセットに関連性があり、代表的であり、可能な限りエラーがなく、AI 製品の意図された目的に照らして完全であることを確保する。
- ・ オリンパスは、AI 製品の変化する規制要件に対する継続的な改善とコンプライアンスを確保するための品質管理システムを維持する。
- ・ オリンパスは、AI 製品の運用を監視し、AI 製品のライフサイクル中のポストマーケティング監視を容易にするための記録保持を確実に実施する。
- ・ オリンパスは、AI 製品の開発において透明性を確保し、関連するステークホルダーに対して AI 製品の目的、能力、および制限を十分に伝えなければならない。
- ・ オリンパスは、AI 製品を監視し、必要に応じてユーザーが介入できるようにするための人の手による監視メカニズムを可能な限り組み込む必要がある。
- ・ オリンパスは、適切な教育とリソースを提供することにより、顧客やその他のステークホルダーがオリンパスの AI 製品を責任持って使用できるようにする。

第9条 AI 原則の不遵守

オリンパスの AI 原則の違反は、オリンパスおよび当社のステークホルダーに重大な結果をもたらす可能性がある。以下はその潜在的な結果の例である。

- ・ 信頼の喪失
オリンパスの AI 原則の違反は、顧客、一般市民、またはその他のステークホルダーからの信頼を失うことにつながる可能性がある。これにより、当社の評判が損なわれ、ステークホルダーとの関係を維持することが難しくなる可能性がある。
- ・ 法的罰則
オリンパスの AI 原則の違反が法律違反にもなる場合、罰金や損害賠償請求につながる可能性がある。その結果、オリンパスにとって重大な財務損失と信頼の喪失につながる可能性がある。
- ・ 懲戒処分
当社は、この方針および対応する手続きの潜在的な違反に迅速に対応し、適用される法律および規制に従って適切な懲戒処分を実施する。これらはケースバイケースで判断されるが、不適切な行動、特にこの方針の違反に対処し、将来の違反を抑止するために、一貫して適切な行動

を取ることを約束する。